

# NAB Show 2022 プレスリリースより

為ヶ谷 秀一

## 1. 3年ぶりにラスベガスで開催

放送や映画などコンテンツ分野における世界最大のコンベンションである NAB (National Associations of Broadcasters: 全米放送事業者協会) の年次大会 NAB Show 2022 が、2022 年 4 月 24 日から 27 までの 4 日間、ラスベガス・コンベンションセンター (LVCC) で開催された。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックにより、2020 年よりオンラインによるバーチャル大会形式での開催や、開催の延期などの対応がとられていた NAB Show は、3 年ぶりに in-person (対面) で開催された。

本稿では、NAB Show 2022 の主催者より発表されたプレスリリースから、米国におけるテレビ、ラジオ放送事業の現状を知ると共に、テクノロジーの進化で変容するメディアに対する NAB の今後の取り組みをフォローする。

今年新しく NAB 会長 & CEO に就任したカーティス・リジャイ (Curtis Legeyt) 氏は、NAB Show 2022 の開催状況について「会場、セッション、そしてイベント全体を通して、熱意と取り組みに活力をもらいました。」と閉会に当たり述べている。

- ・総登録参加者数 52,468 名 (海外からの参加者数を含む)
- ・海外からの参加者数：11,542 名
- ・参加国数：155 개국

NAB Show のコンファレンスの一部 25 セッションが、オンデマンドビデオで公開されている。(註 1)

その中から、次の二つのイベントを中心に、レポートする。



新 NAB 会長 & CEO カーティス・リジャイ氏 (Curtis LeGeYt) © NAB Show 2022

- (1)・NAB Show Welcome 「NAB 会長 & CEO Curtis Legeyt 氏による State of the Industry address」
- (2)・Fireside Chat with FCC Chairwoman Jessica Rosenworcel 「FCC 委員長 Jessica Rosenworcel 氏との対談」

## 2. 前 NAB 会長 & CEO ゴードン・スミス氏が NAB 功労賞を受賞

前 NAB 会長 & CEO ゴードン・スミス (Gordon Smith) 氏が、NAB Show 2022 のオープニングにおいて、NAB で最も栄誉ある Distinguished Service Award : NAB DSA (功労賞) を受賞した。ゴードン・スミス氏は、2009 年 11 月から 2021 年末まで 12 年にわたって NAB 会長 & CEO を務め、ローカル放送の重要性

を主張すると共に、テレビ放送電波のオークションや、音楽著作権システム、NEXT-GEN テレビ (ATSC 3.0) への移行推進等、米国の放送事業における多くの重要課題解決に積極的に取り組んで来たことが高く評価されている。幕張で開催される InterBEE でも講演を行うなど、日本の放送産業にも高い関心を示していた。2021 年末に、NAB Special Advisor (特別顧問) に就任。

## 3. 新 NAB 会長 & CEO カーティス・リジャイ氏 (Curtis LeGeYt) のオープニング演説 (State of the Industry address)

2022 年 1 月に NAB 会長 & CEO に就任して、初めての NAB Show であり、それも 3 年ぶりのリアルな in-person (対面) 形式によるコンファレンスや展示会の開催



前 NAB 会長 & CEO ゴードン・スミス氏が NAB 功労賞 (DSA) を受賞 © NAB Show 2022

となったことを喜ぶと共に、現在の社会状況の変化や技術の進化により、放送事業者にとっても大きな課題が目の前にあることなどを挙げて、今後の NAB の活動に向けて、事業報告 (The State of the Industry Address) を行った。その概要をプレスリリースにより以下に紹介する。

「前回の NAB Show の後、COVID-19 のパンデミックにより、人々の生活や社会活動も根底から大きく変わった。この 2 年間、厳しい経営環境の中でも、常に人々にとって心の拠り所となっていたローカル放送は、視聴者のライフラインとして大きな役割を果たして来ている。

展示会場では、この業界の来るべき時代の力を探求できる最新のテクノロジーが紹介されている。次世代技術には、革新的な NEXT-GEN テレビの新しい放送規格である ATSC 3.0 だけでなく、5G、ストリーミング、モバイルビデオなど、他のコンテンツ配信方法も含まれている。また、ラジオも進化し、車内でのラジオは、ダッシュボードのスクリーンを活用した新しい体験になりつつある。HD Radio とコネクテッドカーとの連携は、放送局とリスナーの関係を、今まで以上に拡大することが期待される。

私たちがテクノロジーに投資するということは、ローカリズムと信頼できるジャーナリズムへの投資を意味する。NAB は、今日状況の中で、放送局が競争力と繁栄を続けられるようにするために、政策を立案する側に対して、次の 4 つの分野にフォーカスした強力な新しい取り組みを提起して行く事としている。

**○第 1** に、議会は、ローカルニュースの経済性を阻害している大手 IT 企業のゲートキーピング能力を抑制するための措置を講じる必要がある。2021 年の調査によると、Google や Facebook を通じて放送局のコンテンツにアクセスした場合、地方放送局は、年間推定 20 億ドルの損失を被っていることが判明した。これは正にマーケットにおける支配力の問題である。

大手 IT 企業の市場支配力は、我々のコンテンツ製品の価値を大幅に切り下している。放送局やローカルメディアは、視聴者とつながるためには、このプラットフォームに依存するしか選択肢がない。大きなプラットフォームと真のパートナーシップを築く方法を見つけなければ、私たちも生き残れない。プラットフォームを通してアクセスされるローカルコンテンツの価値を、共同

で交渉するための法律が必要である。(the Journalism Competition and Preservation Act)

**○第 2** は、メディアの所有権に関する法律を近代化し、市場の現実を反映させなければならない。昨年議会で発表された報告書によると、Google や Facebook がローカルに密着した広告の 77% を支配していると指摘している。放送事業者は、急速に変化する今日のメディアの状況に合わせて、ビジネスモデルやコンテンツを適応させている。しかし、今の法律は時代遅れである。議会と FCC は、こうした何十年も前の規制が、放送の競争とメディアの多様性を助けているのか、それとも妨げているのか、あらためて検討する必要がある。

**○第 3** は、NAB は、FCC に対して、放送政策についてより広範に捉えて再構築することについて議論すること求めている。

100 年前、議会は、放送局が公共の利益のために地域社会に無償でサービスを提供するために免許制度を確立した。しかし、議会が求めたこのビジョンを実現するためには、放送業界が公共の利益のために機能する能力が発揮されなければならないことが前提であることを、FCC が認識することが不可欠である。これは、NEXTGEN TV として、ATSC 3.0 がもたらす消費者への多大な恩恵を受け入れ、ローカリズムと信頼できるジャーナリズムのために、その成長を可能にする政策を執る事を意味する。しかし、我々が、旨く行く事や旨く行かないことなどすべてに拘ると、これは成功しない。

**○第 4** は、地方ラジオ局への新たな演奏料課金に反対する「地方ラジオ自由法」(The Local Radio Freedom Act) への議会の支持を求めることです。

NAB は、音楽ライセンス改革に関する全

体的な議論は歓迎する。私たちは、経済的に持続可能な放送業界の経営を確保しながら、クリエイターのためのパイを拡大することが出来る。しかし、ローカルラジオ局への一方的な演奏料課金の付加は、我々のサービスそのものを弱体化させてしまう。

最後に、放送は単なる技術ではない。公共サービスであり、地域社会に織り込まれている。緊急事態が発生したとき、地域社会が安全と情報を求めているとき、私たちはそこにいる。視聴者が圧倒され、心強い声を求めているとき、私たちはそこにいる。そして、不確実な時代に、視聴者が人間的なつながりと安らぎを求めているとき、私たちはそこにいる。私たちは、人々に希望を与えるために存在している。」

NABは、これら4つの課題を提起すると共に、FCC（註2）と連携して取り組んで行く事を表明している。

#### 4.FCC 委員長と NAB 会長との対談

FCC 委員長ジェシカ・ローゼンウォーセル (Jessica Rosenworcel) 氏は、NAB Show 2022 で新 NAB 会長 & CEO カーティス・リジャイ (Curtis LeGeyt) 氏と放送業界の現状について対談を行った。

NAB Show オープニングの後に開催された対談では、2022 年以降の同委員長の優先事項、放送業界の状況についての考え、FCC が直面する複雑な問題へのアプローチ等について話し合われた。

ローゼンウォーセル氏は、2021 年 1 月 21 日にジョー・バイデン大統領によって FCC 委員長代行に指名され、2021 年 12 月にさらに 5 年の任期で上院の承認を受けた後、正委員長に就任した初の女性 FCC 委員長です。米国議会上院での商業・科学・運輸委員会の上級通信顧問を務めた後、2012 年 5 月に FCC 委員として初めて承



FCC 委員長 Jessica Rosenworcel 氏と NAB 会長 & CEO Curtis LeGeyt 氏との対談 © NAB Show 2022

認され、既に 10 年を超える FCC 委員としての豊富な経験がある委員長である。

NAB Show 2022 “Fireside Chat” における対談の概要を以下に紹介する。

「NAB 会長 & CEO カーティス・リジャイ氏は、FCC 委員長ローゼンウォーセル氏を紹介するにあたり、87 年の歴史の中で FCC の最初の常任女性委員長であり、FCC の委員会 (5 名、内共和党 2 名×民主党 2 名) で大統領指名の民主党系委員長としての最近の活動状況について訊ねることから会話を始めた。」

ローゼンウォーセル氏は、「FCC の委員会に 5 人の委員がいる日を楽しみにしている。今まででもコミッショナー代理として働く機会があったが、引き継ぐ仕事は指数関数的に複雑です。そして、パンデミックの最中に多様な組織ごとにグループを運営し、仕事を遂行する方法を理解し、一緒に働く人々の健康と安全を確保することは大変でしたが、やりがいもありました。」と就任後 5 か月の仕事ぶりを紹介している。「私たちは仕事量を減らし、活動を増やしました」と、CARES 法 (註 3) からインフラ投資および雇用法に至るまで、FCC (連邦通信委員会) にとって非常に重要な任務を負っていると述べている。

新しい FCC 委員長と NAB 会長は、二人とも同郷 (コネチカット州) の出身で、大

変和やかな雰囲気での対談になっていた。ローゼンウォーセル氏は、ローカルのラジオ局にも 10 代の頃の思い出があり、それが今 FCC で働いていることに繋がっているかも知れない、とこやかに述べている。

○対談の焦点の 1 つは、大手テック企業のゲートキーピング能力が、地元の放送局が視聴者にリーチし、広告主に価値を提供する能力に影響を与えていることに関して、法的規制が必要であるとの問題については、ローゼンウォーセル氏は次のように述べている。

「私たちは皆、コンテンツに関して非常に多くの選択肢があります。でも、車に乗るときは、住んでいる町の人の話を聞きたいです。地元のジャーナリズムはとても重要です。」

それは、私たちの生活、私たちのコミュニティ、そして私たちの国について決定を下すために必要な情報を与えてくれます。そして、それはまた、多くの信頼を持っている媒体でもあります。その信頼は、私たちの民主主義の中心的な部分だと思えます。そして、議会でもこの問題には関心があり、特に、地方ジャーナリズムの持続可能性法は、税政策、そしてそれが地方ジャーナリズムの宣伝機会と地方ジャーナリストの雇用をどのように促進できるかを考える上で、非常に興味深いテーマです。それらの議論

を始めようとする意欲は良いことだと思います。]

○ **ATSC3.0の展開**については「FCCをファシリテーターおよびステーションオペレーターのパートナーとして位置付けるために取り組んでいる。この規格は既存の受信機やテレビとの下位互換性がないため、難しいこともあります。FCCは、放送局がATSC1.0とATSC3.0を同時に使用できるようにし、後者を活用して多様な実験できるようにしたいと考えている。FCCがATSC3.0に対して持っているフレームワークは、正しいフレームワークであり、これにより、放送局は、ユースケースを体験、開発し、大規模に機能するものを見つける機会が得られている。放送事業者たちが私たちのところに来て、彼らが見ているものを私たちに伝えてほしい。ルールにハードルがある場合は、それを修正できるかもしれません。]

彼女は、FCCが放送業界に関するデータを積極的に収集していると述べ、NABがその多様性のある目標を達成するのに役立つだろうとも述べていた。

○ **興味のある話題**として、ジオ・ブロードキャスト・ソリューション（註4）の問題が議論されている。

ローゼンウォーセル氏は、次のように述べている。

「前政権がこの技術について、またそのマイクロ・ターゲティングがラジオにとってどのような意味を持つかについてコメントしようとしたことは知っている。私たちは、具体的な話をした方がいいだろうと思いました。そこで、同社は現在、ミシシッピ州ジャクソン市とカリフォルニア州サンノゼ市でいくつかのテストを行いました。そして先週、そのデータを公開し、それに対するコメントを求めました。NABの皆さんには、この技術に問題があるかどうか、有害な干

渉の可能性があるかどうか、広告に影響があるかどうかなど、意見を聞かせていただきたいと思います。]

○ **NAB会長&CEO** カーティス・リジャイ氏は、対談の最後に次のような質問で締めくくった。

「最後に聞きたいことは、会場にはたくさんの放送関係者がいます。彼らはあなたのことを知り、あなたの世界観を知りたがっている。FCC委員として世界観を持つことと、FCC委員長として業界に関連する世界観を持つことは別物だと思います。FCCがこの業界を前進させるためにどのように取り組んでいくつもりなのかについてお聞きしたい。]

ローゼンウォーセル氏は、次のように答えて対談を終えた。

「ローカル放送はユニークな存在です。このパンデミックはそれを証明しています。学校が閉鎖されたとき、ワクチンが準備できたとき、地元の医療施設で何が起きているのか、私たちは地元の放送局に頼って情報を得ました。全国放送から得られる情報ではなく、信頼できる地元のニュースソースに頼る必要があったのです。だから、ローカル放送の価値を証明する必要があるとすれば、この2年間で決定的だと思う。私は、このパンデミックの向こう側に行きたいと思っていますが、その先で何ができるかを考えるために、この進化の全貌を見てきた皆さんからの信頼とコミュニティへのコミットメントがとても重要だと思います。]

## 5. おわりに

リアルな対面（in person）で行われたコンファレンスや展示会では、単に情報だけでなく人と人のコミュニケーションにより発生するオンラインのバーチャル・コンファレンスでは出てこない情報を紡ぎだしていることが、オンデマンドのビデオからも感

じることが出来る。

次回のNAB Show 2023は、NAB Showの100周年記念として、2023年4月15日から19日にかけて、ラスベガスで開催される予定。

（註1）NAB Show 2022 ビデオ・オンデマンド（<https://nabshow.com/2022/videos-on-demand/>）

（註2）FCC：Federal Communications Commission（米国政府の独立機関であり、米国内の放送通信事業の規制監督を行う。）

（註3）CARES法（Coronavirus Aid, Relief, and Economic Security Act）約2.1兆ドルの緊急経済対策として「コロナウイルス支援・救済・経済保証法」（2020年3月27日に制定された。）

（註4）ジオ・ブロードキャスト・ソリューションズ：<https://www.geobroadcastsolutions.com/>

（謝辞：資料提供 ©NAB Show 2022）

Hideichi Tamegaya



国内納入実績 1,300台\*

日本のエンターテインメントを支える  
ワイヤレスインターカムシステム

# BOLERO

## Standalone & Integrated

ブロードキャストライブパフォーマンススポーツイベント  
屋内/屋外、固定設備/可搬設備を問わず、圧倒的なカバーエリアの  
広さとクリアな音質で高い評価を得ている、Bolero IP対応ワイヤレス  
インターカムシステムのベルトパックユニット。日々、エンターテイン  
メントの最前線で使用されています。

\*2022年1月現在



詳しくはウェブサイト



DTM Final



Wimbledon 2017



DFB Cup(CFB vs BVD)